とかち新聞

主筆　松山明

(発行所)北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番

毎旬5の日発行　1カ月200円　1カ年前納2,000円

小林町長の政治力評価

"小坂山"に"いかんに

小坂山周辺一千㌶の観光開発については農業振興地域の指定解除に手間どって足寄町過疎打開の〃目玉政策〃の実現が心配されるとともに、才二次小林町政の最終年度を迎えてそのカナエの軽重を問われる事態となっています。

一千㌶もの大面積の農地をつぶしてゴルフ場や別荘地にするのはどうか、食糧基地をめざす道東において自治体みずからが町有地を農外資本に売り渡すのはどうか、しかも一昨年に農業振興地域としての指定をうけながら昨年になって業者と売買契約を結んでから解除を申請するのはどうか、ゴルフ場といっても草地にするのだからそれなら基幹産業の酪農畜産のための採草地にすべきではないかーと道としての農業振興、自然保護、環境保全の立場から指定解除に慎重を期しているのは当然のことといえましょう。

しかし足寄町には小坂山のように標高四百㍍～六百㍍の地帯で畑にはならず木や草も充分に育たないが道の指導によって混牧林にしておけばいつでも支庁長権限で解除できるということで一応農業振興地域に入れたところがこのほかに一万二千㌶もあることで、これらの地帯でもフンダンに金をかければ立派な農地にすることはできようが、それだけの資力はなく、かりに投資したとしてもいまの農業情勢では経営が成り立たないので未利用地帯となっているので、小坂山の場合は一〇㌃あたり十万円も二十万円もかかってもゴルフ場や別荘地だから採算がとれるものとして投資するのでは、町の産業は農畜林だけではなく商工業も観光事業もあわせて発展させるべきであるとして、昨年九月三日に町議会で売払い処分を議決、七日に野上電鉄不動産と売買契約、二十日に農業委員会で農振地域除外を決定したあと一カ月の異議申し立期間をへたうえで、支庁を通じて解除申請におよんだものの、四カ月後のこんにちなんの目鼻もついていません。

野上不動産としては環境保全、公害防止に一切の責任を負うことを約束し、五十六年までに計画が実現しない場合は売買代金二億円の半額を違約金として土地建物の一切を町に引渡すことにしており、契約後ただちに万国博を手がけた有名設計者や技術者を現地に派遣して実施設計に入り、一流写真家によって飛行機もチャーターして現地撮影の足寄町とアショロ・ハイランドを紹介した豪華なアルバム一万部（二千三百万円）を作製し、土木関係は日本道路、建築関係は大和ハウスを元請けにし、すでにスキーリフトやロープウエイなどの器材も用意していつでも着工できる体制になっているのに、十一月中には農振解○で移転登記ができるという町側の見込みがはずれて、年内いっぱいには…との目算もつぶれて、新年早々には…もダメで、昨年いらい大阪～足寄間をヒンパンに往復している同社では、町に納めた手付金六千万円のほか、これまでに諸雑費一億円は吹っ飛んだといわれています。

町側としては同社との売買契約は農振解除を条件にしてあるので、その前提条件を承知で契約したのだから町には手落ちはないし町に決定権はないので仕方がないといった形ですが、あまりにもおくれてしまって企業側では年度計画を立てての大事業だけにコンピューターによる精密な作業日程や事業採算に、この四カ月の狂いは大きな支障となっているようです。

なにしろ未利用の混牧林三千㌶のうちの一千㌶あり町としては簡単にこたものの、混牧林といえども面積の大きさから支庁長権限ながら本庁へ協議となってカベにあたったもので農務部の農業構造改善課でストップ状態となり、町から課長や係長が〃お百度参り〃の形ですが、かんじんの町長や助役がこの問題では道へ一度も顔を出していないのは、本庁へいかなくても支庁段階で処理するからということだったものの、それが本庁からもの言いがついて支庁では手が負えなくなり、道としても慎重を期して農林省と協議するとか、融雪を待つて現地を再調査するとかで、さらに先へもちこしの情勢となってきました。

この処分をめぐつて難航した町議会では、小林町長が『私の責任で契約し、責任をとる決意で提案した』と言明して議決となつただけに、小坂山の観光開発に町長の政治生命がかかつているわけですが、こうした特定開発行為は四月から道条例の施行によって一㌶以上は知事の許可制になって厳しく規制されるし、施行前の現在でもこのような状態では果して野上不動産の計画どおりにことがはこぶかどうかが問題です。

国のうちそと

★一月二十八、九日の衆議院予算委員会における石橋社会党書記長、不破共産党書記局長、矢野公明党書記長、塚本民社党書記長代行による総括質問は、それぞれに具体的で聞かせる内容をもっていて、田中首相以下の政府側もその事実を認めざるを得なかったこと

★ここで明らかにされたのは、昨年来の石油危機にもかかわらずそれ相当の石油が入っていたこと、この石油危機に便乗して大企業大商社が買い占め売り惜しみで価格をつりあげてボロもうけをしたこと、政府としては各社の三月の決算をみて不当利得をなにらの方法で吸いあげ、価格を下げさせるとのこと。

★邪推すれば、石油危機をあおりたてた政府と財界との共同作戦によってつくり出された狂乱物価で、これで自民党の参議院選挙資金はタンマリということでそれが証拠にはこれらの大企業、大商社の代表を証人として予算委員会に喚問して実態を究明しようというのに反対しているのは自民党だけであること。

つくられた狂乱物価

★とはいっても、資本主義体制こそが自由社会の原理、原則とする自民党にとっては、この体制を支える基本的な勢力である大企業、大商社が悪徳呼ばわりでサラシものにされることに反対するのは当然で、金がものをいう世の中であるからにはあらゆる手段、方法で金もうけをしてなぜ悪いのかということで、統制経済のなかで公定価格があって配給制度になっているのならともかく売る側と買う側とが自由に売買しているからには値格をあげようが下げようが自由で、これが自由経済というものであること。

★佐藤前内閣の場合も物価高騰で散々な目にあった筈ですが、選挙になればケロリとして田中内閣を支持したもので、佐藤内閣がやれなかった鉄道運賃、米価医療費の値上げを決め、これから郵便料金も電気料もという、こういう政府を選んだのは国民の責任。

議員報酬などの引上げへ

足寄で答申

足寄町特別職報酬等審議会は一月二十四日に小林町長から委嘱をうけた武藤吉次（社会福祉協議会委員）柴田栄一（商工会副会長）陶守哲夫（連合PT会長）永村昭和（地区労議長）畠正吉（農民同盟委員長）宮崎利博（青年団体連絡協議会長）今村静子（婦人団体連絡協議会長）関根安司（自治会長）松山明（とかち新聞社長）藤村与作（学識経験者）氏らによってひらき、小林町長のあいさつがあって藤村会長、松山会長代理を互選して、諮問事項の議員の報酬、町長ら三役の給与について十勝管内の支給状況一般職員との比較、管内町村の財政状況、議会の活動状況などについて鷲岡総務課長から説明があり、十勝町村会、議長会合同役員会による

一、給与改訂にともない特別職が一般職より低い額になるのは好ましくない

二、それぞれ町村の実情により改訂の巾は首長は四月一日現在で最高三十万円、最低二十六万円の範囲内でおこなうこと

三、議員の報酬月額は首長の給与にたいして議長は二五%、副議長は二〇%議員は一五%が望ましいとの申し合せ事項も参考にし、すでに幹部職員三名への支給額が収入役を上まわっており、四月からの公務員の給与改訂でさらに格差がひろがること、地方交付税のなかで町長は二十四万円、助役は十八万円、収入役は十六万円しかみられていないものの、教育長は二十五万円、議長は八万円、副議長は七万五千円、議員は七万円と算定されていること、財政力指数が十九カ町村のなかで才三位にあることなど、大がかりな県案事項をかかえていることなどから議員報酬、三役給与ともに引きあげることにしました。

改訂額については各委員が資料をもち帰って検討したうえで二十九日に再開して、つぎのように改正して四月一日から実施するように小林町長に答申しました（カッコ内はこれまでの額）

議長　七万五千円（六万八千円）
副議長　六万円（五万三千円）
委員長　五万一千円（四万六千円）
議員　四万七千円（四万二千円）
町長　三十万円（二十六万五千円）
助役　二十三万円（二十万五千円）
収入役　十九万五千円（十七万五千円）

このほか付帯意見として

一、教育長の給与は収入役と同額にすること

二、非常勤の特別職は議員ばかりでなく、重要な職責にある監査委員、教育委員、農業委員の報酬についても諮問するように条例を改正すること

三、月額報酬として監査委員（議会選出は除く）三万円、教育委員長三万円同委員二万円、農業委員会長二万円、同委員一万五千円が適切であることを付記しました。

欠席議員と定数減問題

○…特別職報酬等審議会はこのごろは年中行事のように〃引きあげ審議会〃となっていますが、なにしろ春斗にはじまる労働攻勢によって賃あげがおこなわれ、毎年、人事院の勧告にもとずき国家公務員の給与があげられるので地方公務員もこれに準じ、古参課長の給与が三役を追い越すことになるので、三役を下位に据えおくわけにいかず、三役をあげれば議員もという年中行事は〃物価値あげ内閣〃がつづくかぎりは止むを得ないこと。

○…どちらにしても町長が提案して議会が議決することですが、お互いに自分のもらい分をお手盛りではとり、チョッと顔を出して出席にしておいていつのまにか姿が見えない人もあり、ときには欠席しても出席のさいは目立つた発言をする人もあり、欠席が悪いといつても公務上の欠席もあれば病気の場合もあり、役職を多くもつ人ほど欠席も多いもので、婚礼や葬式や私用の方が議会より大切なのかどうかは本人の良識の問題で、沈黙や欠席ぶりを云々されていながら連続当選しているところは本人もさることながら選挙民にも責任があるわけで、つまるところは立派な議員が登場するにはそれだけ選挙民が成長しなければー。

○…議員や委員の定数をへらして経費の削減をはかり部落的な代表でなく全町的な視野に立つた少数精鋭主義でといつても、人口の減少が法律で定められている定員資格以下にまで落ち込んだのならともなく、所定の人口を維持しているかぎりは定員いつぱいにして住民の行政参加の権利を守るべきだとの原則もあること

○…経費の点になると、交付税で算定されているだけの議員報酬は支給しないで逆に交付税でみられる以上に高額な町長ら三役の分を補つているのが実態。

○…定員をへらして少数精鋭にすれば全町的な視野の立派な人物ばかりになるかといえば、こうした末端の身近かな選挙の場合はむしろその逆で、羽振りのよい顔役や親類縁者やつながりの多い人、組織に乗った人選挙上手な人が有利になることで、良心的な人でも組織や資金がなければ特に新人は出ずらくなることで、定員いつぱいにしておけばなかには役に立たない人が登場するとしてもまじめ人も出てくるのでより安全性があろうというもの。

不動産についての御相談は
調査　売買　あつせん　管理　分譲
代行　登記　損害保険　代理まで
同和、興和火災保険代理店
北海道免許十26
足寄不動産事務所
足寄町本通り三丁目　〒二三四五
女子事務員数名求めます

大自然のなかの人工美
ーいで湯のふるさとー
観光と保養の
芽登温泉
足寄町芽登　〒二八五五

家具と建材
信用は最大のサービス
技術と納期を誇る！
家具　建具　製造販売
住宅内装に新建材を！
佐藤家具建材店
足寄駅前　電話二二三一番